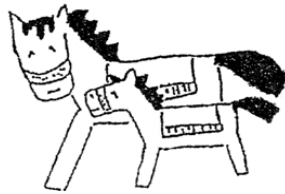


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

26年 6月 NO. 235



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～

6月の主な活動

～お気軽にどうぞ～

6月 7日	土	体験保育 10:00～12:00	お子さんと同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
6月 21日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方もどうぞ 育児体験においで下さい。
6月 25日	水	健康育児相談 11:00～12:00	小児科園医師にゆっくり相談できます。 (予約要)
6月 26日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	産経新聞高松支局長 竹室 輝之氏に 「メディアと現代のこども」について お話いただき、フリートークします。
6月 27日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「元気にな～れ」をテーマに野菜の絵本や 手あそび、体についての紙芝居をします。
6月 28日	土	脳力活きいきアート 14:00～16:00	シュタイナー教育をとり入れたにじみ絵で花を 描きます。思いもしない作品の出来上がり が楽しみです。どなたでもどうぞ。 (託児予約要 予約締切:6/26)

・火～土の13時～16時までは、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



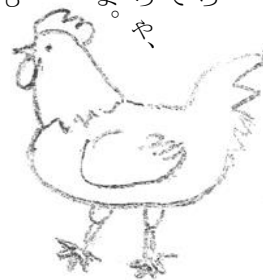
四時
り
こ
う
な
鶏
は
な
と
り
は
啼
く
よ。

時
間
計
を
は
な
く
つ
て
も
四
時
計
だ
と
い
う
め
ち
や、
時
間
計
を
わ
ら
わ
る
め
ち
や、
時
間
計
を
あ
ら
わ
る
め
ち
や、

四
月
に
さ
な
く
よ。
暦
を
が
な
く
な
つ
て
も
暦
を
あ
ら
わ
る
め
ち
や、

四
月
と
い
う
よ。
暦
を
な
が
め
ち
や、
暦
を
あ
ら
わ
る
め
ち
や、
暦
を
あ
ら
わ
る
め
ち
や、

こ
よ
み
暦
と
時
計



26年度のことしは、偶数月（4・6・8・10・12・2月）の6回「脳力活きいきアート」として色々な絵画体験を計画しています。

♡ 第1回 4月19日（土）のにじみ絵のようす ♡

シュタイナー教育を取り入れたにじみ絵の作品づくりをしました。

参加者が赤と思う小物を1つずつ中央の台の上に置き、（ビンのふた・包装紙・色紙など）赤という色に対するイメージを言っていました。（情熱・血・躍動・怒りなど）そして、B4の水彩紙を水につけて湿らせ、スポンジで水分をとった後、ストックマーの水彩絵の具を使って太筆で自分の赤へのイメージを自由に表現していききました。

赤が形や色も変化し、広がっていく色彩の世界を体験しました。このようにして、青・黄色と同じような手順で作品づくりをしていききましたが、湿っている時と乾いた時とは画面が薄くなっていたり、ポイントが大きく変化していたり、思いもよらないおもしろい作品になっていました。

シュタイナー教育のクレヨン画と水彩お絵描き

2歳半から3歳くらいの子どもは、無意識に殴り書きを始めます。絵の形式は、子どもの成長とともに、次第に変化していきます。不思議なことに、世界中どこでも、幼い子どもたちは同じような絵を描きます。シュタイナー幼児教育の立場からの子どもの絵画論、『幼児の絵言葉』を書いたミカエラ・シュトラウス女史は、子どもの絵は身体内に働く生命の力を表現している、と言っています。子どもの自由画は、子ども自身の成長の息吹なのです。大切に取っておくべきもののひとつでしょう。

週に一度、決まった日の自由遊びの時間に、水彩お絵描きをします。子どもたちは自由遊びを続けます。先生はあらかじめ、お絵描きの準備をしておきます。画用紙を1枚1枚、直接水につけ、画板にのせます。次にスポンジでそれを拭き、余分の水を吸い取ります。こうして用意した画板を6枚、テーブルに

並べます。赤・黄・青の三原色を適量の水で溶き、さらに小皿に分けていきます。1人ひとりの子どもに、絵の具をかきまぜるための小皿、絵筆、絵筆を洗う水の入ったコップ、それに筆を拭うための布を用意します。それらがテーブルのうえにきれいに揃ったところで、子どもたちがやって来ます。子どもたちはまずエプロンをつけ、席につきます。

お空は虹の橋 お空にいっぱい きれいな色
お空の虹さんおりてこい 私のお皿におりてこい
私はおまえと お絵描きしたいの



お絵かきの手遊びをしてお絵かきにふさわしい気分をつくりだした後、先生は絵筆に色をつけて描き始めます。その姿を見て、子どもたちも画用紙に色をおいていきます。このとき大切なのは、何を描くかということではなく、子どもたちが色彩そのものを体験するということです。色にはそれぞれ、まったく独自の気分があります。明るさ、暗さ、陽気な気分、悲しい気分、暖かさ、冷たさ、静けさ、躍動感など、実にさまざまなニュアンスがあります。紙に水を含ませるのは、そのような色彩の働きを十分に生かすためです。子どもたちが、色の生きいきとした性質と親しむことが大切なのです。

ルドルフ・シュタイナーは、色は自然の魂であり、色そのものが生きた存在である、と考えていました。色彩を体験することによって、自然の中にあるさまざまな事象への生きいきとした関わりが育つ、と考えたのです。また、他者の苦しみや喜びに対する感受性も育っていきます。そのほか、水彩お絵描きがもつ教育的な効果は、いくつも数え上げることができます。

1. 色に対する感性が豊かになります。色と親しむようになり、クレヨン画にとってもゆたかな色彩が現れるようになります。
2. 治療的な効果があります。暴力的で怒りっぽい子どもに、赤い色などを描かせていきますと、子どもは色の中に自分の荒々しい気持ちを見出し、

発散することができます。そして、いつとはなしに魂が調和していきます。

3. 現代人は自我が発達しており、お互いぶつかりあうことが多くなり、人間関係もぎすぎすしていますが、幼児のころから、このようにいろいろな色彩を生きいきと体験していますと、人間のさまざまな感情とのつきあい方も身に付いてきます。他者が発散するどうしようもない感情にも客観的に向かい合い、そのうえで自分を主張し、共同作業を進めていく力が養われます。他者との関わり、自然の事象への深い共感をもてる人間になります。

子どもたちが赤、青、黄の3原色を、それぞれ思い思いに描いていきますと、この基本色が混ざり合って、微妙な緑、紫、茶などの中間色となり、子どもたちは絶え間のない発見の喜びに満たされます。勢いよく、またためらいがちに筆を走らせる色彩の痕跡が子どもの心を満たします。

3歳児は、最初1色だけで始めます。たとえば赤または青1色でも満足し、溶いた絵の具がなくなるまで色を塗りたくっていきます。別の色を使うとき、最初に塗った色の隣にではなく、そのうえに重ねて塗ります。その結果、画用紙のうえには、何とも言いようのない濃い色の広がりが生じます。それでも回を重ねていくに従って、むやみやたらに色を重ねて塗りたくるようにはなりません。最初に塗った色に重ならないように、慎重に描けるようになっていきます。

4歳児、5歳児になると、自分で描いている画用紙に何か特別なことが生じると、それを報告したがるようになります。静かに、熱心に、考え深く念入りに、お絵描きができるようになり、時々、先生はその絵について、子どもたちと話し合ったりするようになります。

お絵描きの準備と片付けも、年齢に応じて、できることをできるだけ手伝わせるように習慣づけていくことも大切です。

日本のシュタイナー幼稚園 高橋 弘子著 より

